

( 続紙 1 )

京都大学	博士 (地域研究)	氏名	桐越 仁美
論文題目	西アフリカにおける気候帯を越えた民族の連携と結節 —サバンナおよび森林地帯の生業とコーラナツツ・ビジネスの展開—		
(論文内容の要旨)			
<p>本論文は、西アフリカのサバンナ地帯に暮らす人びとの農耕形態と生業構造を捉えたうえで、ガーナ南部の森林地帯に移住したサバンナ出身者たちの生活の変化と移住の経緯に焦点をあてて、コーラナツツ取引 (以下、コーラナツツ・ビジネス) にみられる民族間の連携やネットワークの構造を詳細に分析し、ゾンゴと呼ばれる移民居住区の結節機能を明らかにしている。</p> <p>序章では、先行研究をふまえて、西アフリカにおけるトランス・サハラ交易の歴史的変遷を概観したうえで、過去の気候変動や国家政策の変化を契機とした人びとの移動についてまとめている。1970年代の干ばつや1980年代の構造調整政策によって、サバンナ地帯の人びとはガーナ南部の森林地帯へ現金稼得を目的に移住し、広大な西アフリカを対象とする交易に従事した。西アフリカ交易のなかで平和裏に築かれていった民族間関係を分析し、ガーナ南部への北部民族の移住において大きな衝突が回避されてきた社会的メカニズムを検討するという本論文の目的を提示している。</p> <p>第一章では、西アフリカを対象に、緯度にもなって変化する生態ゾーンについて、その気候や地形の特徴を解説し、南から森林地帯、湿潤サバンナ地帯、乾燥サバンナ地帯、サハラ砂漠へと移り変わる各生態ゾーンのなかで培われてきた生業形態や言語系統、民族文化を概観しながら、それぞれの地域に暮らすハウサやダガーレ、クサシ、アサンテといった諸民族の特性を明らかにしている。</p> <p>第二章では、ニジェール南部の乾燥サバンナ地帯における農耕民ハウサの生活実態を、主要な生業である農耕や村外への出稼ぎに焦点をあてながら明らかにした。ハウサは、侵食による耕作地の荒廃とそれにもなう生産性の低下に対処するため、牧畜民と野営契約を結び、耕作地に家畜糞を投入することで生産性の低下を抑えている。耕作地の土地生産性の向上をめざす一方で、不足する食料を補うために男性の多くが村外へ出稼ぎに行くという基本的な生活様式を解明した。</p> <p>第三章では、ガーナ北西部の湿潤サバンナ地帯における農耕民ダガーレの農耕形態と季節労働について検討することで、不安定な降雨量のもとで暮らすダガーレの生計戦略を明らかにした。ダガーレは土壌侵食に対処するためマウンドと畝を造成する。降水量の大きな変動のもとで生計を維持するため、ガーナ南部のアカン系民族の領域においても生活拠点を持ち、恒常的にガーナ南部への移動を繰り返すことで生活を成り立たせていた。</p>			

第四章では、カカオとコーラナッツという換金作物の生産に焦点をあて、ガーナ南部に居住するサバンナ出身者の生業形態について明らかにした。サバンナ出身者はアカン系民族の領域において移住者の居住区ゾンゴに集住し、その多くがコーラナッツ・ビジネスに関わっている。彼らはガーナ南部に移住する際に、コーラナッツ・ビジネスの人間関係を利用していることから、ゾンゴが単なる居住区ではなく、新参者を受け入れる商業ネットワークの拠点として機能していることを明らかにした。

第五章では、西アフリカにおけるコーラナッツ交易の歴史を概観し、18～19世紀に構築されたハウサ商人による商業ネットワークについて記述し、現在のコーラナッツ・ビジネスとの類似性を明らかにした。ハウサ商人やガーナ北部のクサシ商人たちは西アフリカ各地に交易拠点のゾンゴをつくり、巨大な商業ネットワークを構築するとともに、ゾンゴを通じて地域住民との連携を図っていた。このような商業ネットワークは、民族の異なる商人どうしが連携する現在のコーラナッツ・ビジネスにも認めることができる。本章では、現在の取引にみられるコーラナッツの採取者や商人、買付や販売、輸送に関与するブローカーなどが複雑に関与する商業ネットワークの全容を明らかにしている。

第六章では、ガーナ南部の都市と農村において、サバンナ出身の移民が生活するゾンゴの形成と発展について検討している。ハウサ語でゾンゴは「交易拠点」を意味し、18世紀にコーラナッツと奴隷の交易に従事するムスリム商人がゾンゴを形成したのがはじまりである。現在では商人たちがコーラナッツの円滑な流通を可能とするため、ゾンゴを拠点に商業ネットワークに参画している。この商業ネットワークによってコーラナッツだけではなく、西アフリカ各地に農産物や工業製品が流通している。

終章では、以上を総括し、西アフリカにみられる民族を越えた商業ネットワークとそれを支えるゾンゴの結節機能について考察している。西アフリカの人びとは、新たな人との出会いやビジネス・チャンスを求めてゾンゴに集まり、ゾンゴを拠点とする商業ネットワークを形成している。今では中東やアジアにもゾンゴが存在し、コーラナッツ・ビジネスを原型とする商業ネットワーク・モデルが世界中に展開していることを指摘した。奴隷貿易やイギリスによる植民地統治という歴史的な累積のなかで、ガーナでは南部のアカン系民族と北部の諸民族とのあいだには敵対感情が潜在するが、ゾンゴを拠点とする商人のあいだには商業的な関係性が結ばれており、西アフリカの南部と北部で異なる民族や宗教を越えて、国・地域をまたぐ人びとの連携が可能となっていると結論づけた。

(論文審査の結果の要旨)

西アフリカでは、古くよりサハラ砂漠を越えて長距離交易のネットワークが築かれ、人や物、資本が活発に移動してきた。近年では道路網の整備やモータリゼーションの進展にともなって商業活動の範囲が拡大し、流通も活発となっている。本論文は、このような状況下にある西アフリカを対象に、乾燥サバンナ地帯と湿潤サバンナ地帯における農耕形態と生業様式を検討し、降水量の変動や貧栄養土壌が農業生産を制限しているために、村外での就業による現金稼得が必要であること、そしてサバンナ地帯に暮らすハウサやダガーレ、クサシといった諸民族の人びとが南部の森林地帯でカカオや農産物の生産に従事しつつ、コーラナツ・ビジネスを中心とする商業活動に参画することで、巨大な商業ネットワークを構築していることを明らかにしている。

本論文の学術的意義は、以下の3点にまとめることができる。

まず、本論文は、乾燥サバンナ地帯のハウサ農村および湿潤サバンナ地帯のダガーレ農村において農業生産と生活様式を検討するとともに、植生調査や土壌分析、気象観測、地形測量といった自然科学的な分析方法を組み合わせることによって、両社会における自然環境の厳しさ、不安定な農業生産、土地の狭小化、慢性化する食料不足と飢餓の発生の実態を解明することに成功している。乾燥サバンナ地帯や湿潤サバンナ地帯の人びとが、こうした厳しい環境のなかで不足する食料や現金収入を補うために、積極的にガーナ南部の森林地帯に移動してきた経緯が明らかにされている。

第2点は、西アフリカの有名な交易産物であるコーラナツに着目し、生産地から消費地にいたる長距離輸送（シャゴ・システム）と、取引に関与する商人たちの活動を、詳細な民族誌的記述によって示したことにある。このシャゴ・システムにより、ガーナ南部の森林地帯で採取されたコーラナツは多くの民族を介して北部のサバンナ地帯へと輸送されてきた。ハウサ商人が主導するコーラナツの流通を明らかにするためには、森林地帯から乾燥サバンナ地帯におよぶ西アフリカの広大な地域を対象とする必要があり、フィールドワークにもとづくコーラナツ・ビジネスに関する研究はほとんどない。本論文は、18世紀以降のコーラナツ交易の変遷を文献によって明らかにしたうえで、現在のコーラナツ交易においてもガーナ南部のアカン系民族、ガーナ北部の諸民族（ダガーレ、クサシ）、ニジェール南部からナイジェリア北部にひろく居住するハウサが多く関与していることを示した。広域調査とハウサ語の理解によって、コーラナツ流通に関与する商人たちの民族誌的記述を詳細におこなったことは高く評価することができる。

第3点は、コーラナツ流通の拠点となる移民居住区ゾングの歴史的変遷と現代的展開を明らかにしたところにある。ゾングは元来、ハウサランドにカヌリやトゥアレグといった他民族の隊商が宿泊する宿営地を意味する言葉であったが、その後、ハウサランドの外部に設けられたハウサをはじめとするムスリム商人の交易拠点となり、イギリス植民地時

代には金採掘や鉄道建設に従事する労働者の生活拠点となった。このような変遷を示したうえで、現在のゾンゴがムスリムの交易拠点として発展し、さまざまな背景をもつ新参者を積極的に迎え入れ、ビジネスの結節点として新たな活力を得ていることを明らかにした。また、現在のゾンゴが新たな人や情報、資本、ビジネス・チャンスを求めて西アフリカ各地に拡散しつつあり、いまや西アフリカの域内におさまらず、現在では中東やアジアにも形成され、巨大な商業ネットワークを形成していることを明らかにした。

本論文は、ハウサ語とダガーレ語の運用能力を活かし、西アフリカの広域を対象とするコーラナツ・ビジネスの実態を、生産地の生業様式、歴史的な変遷、商業ネットワークや人の動きによる地域間の関係性などに注目して、文理融合による手法を用いて解明した地域研究のすぐれた成果であり、高く評価することができる。

よって、本論文は博士（地域研究）の学位論文として価値あるものと認める。また、平成28年7月4日、論文内容とそれに関連した事項について試問を行った結果、合格と認めた。

なお、本論文は、京都大学学位規程第14条第2項に該当するものと判断し、公表に際しては、当該論文の全文に代えてその内容を要約したものとすることを認める。